船井情報科学振興財団

報告書

織井理咲

University of Washington
Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering

2022 年 12 月

University of Washington Paul G. Allen School of Computer Science & Engineering の博士課程の二年目の一学期目が終了しました。今回は夏に行った研究を紹介したいと思います。

I. 夏の研究

夏にアフリカのマラウイ共和国の HIV クリニックで使用されている電子カルテのセキュリティ向上に関する研究プロジェクトに参加し始めました。前回の報告書でも少し紹介しましたが、このプロジェクトはコンピューターサイエンス、グローバルヘルス、疫学の研究者とマラウイの保健省の人の共同研究プロジェクトです。研究目的は、マラウイの HIV 患者と医療従事者の現地で使われている電子医療記録システムに対する観点を理解することです。

エイズは、治療が進化しているにもかかわらず、「死にいたる病（やまい）」「治療法がない」という誤ったイメージがいまだにあり、エイズ患者は差別的・排除的な扱いを受けることが多いという現実があります。それもあり、エイズ患者の個人情報の取り扱いには非常に大きな注意が求められます。特にマラウイの HIV クリニックは資源不足であるに加えインフラが整っていないため、なおさら個人情報のセキュリティ面が重要です。このような環境の中で、エイズ患者の健康と幸福を促進する研究に関わりたいと思い、エイズ患者がクリニック外の場所で受診する際に使われる電子カルテを、正確かつ安全にすることを目指すプロジェクトに参加することにしました。

夏に訪問したマラウイの HIV クリニック

マラウイでの現状を調査するために、夏に現地を訪問し、クリニックの医療従事者、エイズ患者、データ管理者、ならびに政府関係者と面談し、電子カルテに対する懸念と今後の改善点を話し合いました。現地調査では、マラウイの患者のカルテの情報管理は緩く、患者の治療や情報の安全についての課題が続いていることが明確になりました。現在はフィールドワークで得た結果を分析し、HIV クリニックに結果を報告する準備を進めています。また、結果をまとめた論文を 1 月中旬に提出する予定です。

II. フィールドワークについて

このようなフィールドワーク研究に参加する機会は私の分野（ICTD）ではかなり頻繁にあります。今回のフィールドワークでは現地を観察する重要性を知りました。初フィールドワークかつ初アフリカだったので行く直前まではとても緊張していて、正直宿泊地に到着するまで落ち着きませんでした。

宿泊地のゲストハウスで飼われている犬（Jelly Bean と Joe Biden）と仲良くなりました

マラウイでの食事

特に今回のフィールドワーク研究ではクリニック従事者と政府関係者と直接会って面談することが目的だったが、面談以外での観察や体験がとても貴重だと感じました。特に現地の文化、人間関係、クリニックの環境などを目で見ること、体験することでやっと少し理解できたという感じでした。たったの 2 週間のフィールドワークでしたが、予想以上に得たものが多く、現地のコミュニティや組織と関係性を築く重要性を改めて感じました。特に ICTD の研究は現地とのパートナーシップによってやっと成り立つものでもあるため、今後も頻繁にフィールドワーク研究を行い、現地との繋がりを強めたいと考えます。

III. その他

MIT Technology Review の Innovators Under 35 Japan を受賞しました。まだ私の研究は始まったばかりですが、このように研究を評価していただき励みになります。今後研究を成果に繋げたいと気持ちが引き締まりました。

IV. 最後に

年末の交流会で初めて対面で財団の方とお会いし、皆さんのお話を伺ってそれぞれの研究に励んでいらっしゃることがわかり、刺激を受けました。船井財団の皆さんの素晴らしさを改めて感じました。今後も皆さんと対面で交流する機会があることを楽しみにしています。